

水^{とも}と共生に

「シンガポール国際水週間2016」ルポ アジア最大の水会議・展示会で討議されたこと



グローバルウォーター・ジャパン代表 国連環境アドバイザー 吉村 和就

1972年荏原インフィルコ入社。荏原製作所本社経営企画部長、国連ニューヨーク本部の環境審議官などを経て、2005年グローバルウォーター・ジャパン設立。現在、国連テクニカルアドバイザー、水の安全保障戦略機構・技術普及委員長、経済産業省「水ビジネス国際展開研究会」委員、自民党「水戦略特命委員会」顧問などを務める。著書に『水ビジネス 110兆円水市場の攻防』（角川書店）、『日本人が知らない巨大市場 水ビジネスに挑む』（技術評論社）、『水に流せない水の話』（角川文庫）など。

アジア最大の水会議・展示会「シンガポール国際水週間 (SIWW) 2016」が6月13日までの3日間、同国のマリナ・ベイ・サンズ・コンベンションセンターで開催された。主要テーマは「持続可能で強靱な都市の水環境ソリューション創造」。7回目を迎えたSIWWでは、世界各国の政策関係者や水問題の専門家、水関連の各国機関トップが一堂に介し、水に関する諸問題が幅広く討議された。

開会式では、シンガポールのトニー・タン大統領が、各国の参加者に歓迎の意を示すとともに、同国の新戦略

として①スマートウォーターソリューション、②水とエネルギーと廃棄物のネクサス(連鎖関係)、③革新的な技術で持続可能なスマート・シンガポールの国づくりを行うこと—を強調した。

合同基調講演

このほか初日は、SIWW、世界都市サミット、クリーン環境サミットの3大イベント合同による基調講演が行われ、約2000人が参加した。

冒頭、シンガポール大学のトミー・コー教授は「世界人口の7割が都市に住み、水の果たす役割が年々重要に



SIWW初日に行われた3大イベント合同の基調講演

なっている。また、温暖化の影響とみられる水災害も頻発している」と指摘。ダボス会議での首脳宣言や、宮城県仙台市での「国連防災宣言」を確実に実行していくことが重要とした。

デンマークのエスベン・ルーデ環境・食糧相は「デンマークはすべての水資源を地下水に頼っている。その量が年々減少しているので、水の節約と水質改善に国を挙げて取り組んでいる」と語った。

多国籍食品企業Nestle S.A.のブラベック会長は「ネスレは世界中に生産拠点を持っているが、この10年間で水の使用量を50%削減した。私たちはその国の水資源を大切に使うことを宣言している」と述べた。

専門家会議の話題

専門家会議では、技術に関する重要テーマとして、強靱な都市づくり、地球温暖化対策と水問題、水のリス



「シンガポール国際水週間」コンベンション会場となった同国のマリナ・ベイ・サンズ地区



水エキスポの会場風景



ジャパン・パビリオン



シンガポール最大の水企業、ハイフラックスのブース



シンガポール企業セムコープのブース



アジア水会議－APWF合同会議のメンバー
右から4番目が筆者

ク管理が取り上げられた。また、個別技術では、嫌気性消化の促進、脱塩の前処理などに焦点があてられた。

水処理技術の開発を進めるシンガポールのEDB（経済発展庁）やPUB（公共事業庁）の発表では、今後、アジア諸国が直面する工業廃水の処理（特に含油廃水）に、新しい膜処理方法を探索する姿勢が示された。

SIWW期間中には、PUBとセムコープ（Sembcorp、年間売上高約6800億円）が共同でシンガポール南西部にある人工島、ジュロン島で実施する2つの膜処理に関する実証計画が発表された。1つは、三菱電機が開発した省エネ型Eco-MBR（旭化成膜使用）の膜汚染防止でオゾンを使用する。もう1つは、中国・精華大学の特許を使い製品化したセノール（Sceinor）社のPVDF中空糸膜を使うもので、いずれも高フラックス、ロングライフ、耐薬品性のほか、全体で30%の省エネを目指すもので、今後2年間に実証試験を行う。

●展示会・記念式典・合同会議

併設された展示会「水エキスポ」は、処理技術、サービス、製品をテーマにした水処理分野の総合見本市になっており、盛況だった。SIWW事務局の発表によると、世界133カ国から約2万人が参加し、展示は約800ブース超となった。

国別パビリオンでは、18カ国（シンガポール、米国、カナダ、デンマーク、イスラエル、中国、ドイツ、英国、韓国、オランダ、台湾、日本など）が展示を競った。

●ジャパン・パビリオン

日本は日本貿易振興機構（ジェトロ）主催の「ジャパン・パビリオン」に28団体がブースを構えたほか、単独でブースを設置する日本企業も目立った。会場では、開催国シンガポールに次ぐ存在感を示していた。

ジャパン・パビリオンでは、wating、JFEエンジニアリング、キッツ、栗田工業、東洋紡、住友電工、鹿島建設、富国工業、クラレなどの民間企業のほか、福岡市、横浜市、日本下水道協会、水といのちものづくりの中部フォーラム、横浜市水ビジネス協議会などが出展していた。

単独で大きなブースを構えていたのは、メタウォーター、東レ、日東電工、明電舎、三菱電機などだった。

●世界水会議&アジア太平洋水フォーラムの合同記念式典

創立20周年を迎えた世界水会議（WWC）と、創立10周年を迎えたア

ジア太平洋水フォーラム（APWF）が合同で記念式典を開催した。APWF（事務局：日本水フォーラム）は、2006年に橋本龍太郎元首相によって設立され、現在は森喜朗元首相が会長を務めている。記念式典では日本水フォーラムの竹村公太郎事務局長が森会長からの祝辞を述べ、両組織の関係強化を宣言した。

●アジア水会議&アジア太平洋水フォーラムの合同会議

韓国が主導するアジア水会議メンバーと、APWFの事務局を務める日本水フォーラム関係者が合同ミーティングを行った。アジアの水問題解決のため、両国が協力して取り組む項目として、水の安全保障と地球温暖化対策、アジアの水災害の減災、水とエネルギーと食糧の未来、IT技術を駆使した水管理の在り方などが話し合われた。話し合いは、2018年にブラジルの首都ブラジリアで開催される「第8回世界水フォーラム」に向けたキックオフの意味合いもあった。

次回のSIWWは2年後の2018年7月にシンガポールの同会場で開催される。E